



横浜地本・八王子地本情報づくり研修

11月17日「湯の花トンネル列車銃撃事件」現地踏査行動踏査

11月17日に横浜地本・八王子地本主催で地本情報づくり研修を東京都八王子市高尾の西にある「湯の花(いのはな)トンネル」で発生した銃撃事件の現地踏査行動として開催しました。八王子の身近な場所で起きた戦争の悲惨な歴史を学ぶことを通じ、惨劇となる戦争を起こさせないために平和を希求する取組みを推し進める決意と、情報を通じ真実を組合員や未加入者に広めていくことを一致出来る研修となりました。



そもそも「湯の花(いのはな)トンネル列車銃撃事件」とは…

- ・この銃撃事件は「中央本線419列車空襲」とも言われています。
- ・1945年(昭和20年)8月5日午後0時20分ごろ、浅川駅(現・高尾駅)を発車した新宿発長野行419列車が中央本線湯の花(いのはな)トンネルの東側出入口に差し掛かったところで、アメリカ陸軍戦闘機「P-51ムスタング」4機の銃撃を受けた空襲です。
- ・1945年8月2日に八王子空襲が起こり、市街地の8割が消失する甚大な被害をもたらした。中央線も不通になり、全面復旧したのが8月5日当日であった。419列車は復旧直後で空襲から疎開する乗客で満員の中で襲撃されました。
- ・満員の車内で銃撃をされたため約40名が即死、結果として52名が亡くなり、133名が負傷する国内最大規模の被害者が出る銃撃事件になりました。また収容先で亡くなった方や関連死の方を含めると60名以上が亡くなったと推定されています。被害者の中には幼い子どもや中高生も含まれ、若い人も多く犠牲になっています。
- ・銃撃により架線が切断され、419列車はトンネルに入る直前で急停車したため、「P-51」は旋回をしながら繰り返し機銃掃射を行い、多くの被害者が出ました。

八王子空襲から命からがら助かり、疎開をしようとしていた最中に起きた銃撃…

戦争が罪のない市民の命を奪う行為であることが分かります

そして今でも戦争による鉄道を標的とした攻撃は多く発生しています

私たち鉄道で働く者にとって、戦争下の攻撃は決して他人事ではありません!

今こそ戦争の悲劇を学び、反戦平和を推し進める仲間と連帯しよう!